

住みよく居心地の良い奈良市へ!

奈良市議会議員 日本維新の会奈良市議団所属

佐野 かずのり

議会活動  
レポート

vol. 9

佐野かずのりの議会活動については奈良市議会ホームページもご覧ください。議会中継(録画)は右QRコードから。  
<https://www.city.nara.lg.jp/site/narasigikai/>

佐野かずのりの活動をホームページのほか、SNSでも配信しています。ぜひご覧ください。



## 市長、公民館廃止計画を撤回!

昨年(令和5年)の8月29日、飛鳥地域自治協議会の会長と他8名の方々が、「市立飛鳥公民館の廃止計画を中止し現公民館の存続を求める請願書」を提出され、私も紹介議員として、9月議会で同請願の趣旨を説明させていただきました。

仲川市長が「素案」とした公民館廃止計画は、地域からも要望があったふれあい会館の新設と引き換えに、公民館を廃止するというものです。これは私の地元である飛鳥地域にとって、まさに青天の霹靂としか言いようのない計画でした。

そのため飛鳥地区の住民は、地域の社会教育機関としての拠点である公民館を失い、これまで培ってきた生涯学習のノウハウや機会が大幅に失われることとなる奈良市の計画に脅威を感じていたところ。その後9月議会では会派を超えて反対や疑問の声が上がり、**公民館廃止計画は12月議会で撤回に追い込まれました。**

### 押し付けプロセスにはNO!

市民の痛みを伴う行財政改革には、強いリーダーシップと明確なビジョンが必要です。時には市民に対して厳しい決断をしなければならないこともあるでしょう。しかし公共施設の改革については、それぞれの地域によって状況やニーズが異なります。一律の政策では改革が進まないとしても全く不思議はありません。

加えて今回飛鳥地域では、奈良市は地元の一部の人とだけ意思疎通して計画



廃止が撤回され存続することになった飛鳥地区公民館。

を進め、飛鳥地区全体の民意を確認しないまま、素案にもかかわらず、唐突に市長自ら公民館の廃止を住民に説明しました。そのため、飛鳥地区の住民に不必要な分断を招くことにもなりました。

私は**公共施設改革については、トップダウンによる一方的な計画の押し付けではなく、ボトムアップで進めることが重要**だと考えます。現状では、職員と地域住民、利用者が、公共施設の在り方についてともに考える機会が不足しています。行政が住民の希望をすくい取る工夫を十分に重ね、より詳細で明確なビジョンを住民とともに練り上げていく、そのようにしてそれぞれの地域にあった公共施設が計画されたなら、今回のような「混乱」は起きなかったはず。です。

### 宙に浮いた旧極楽坊あすかこども園の跡地利用

撤回された奈良市の計画では、旧極楽坊あすかこども園跡地に地域ふれあい会館を設置することになっていました。この計画の妥当性について、奈良市財政課長は令和5年11月17日の総務委員会で私の質問に対し、次のように答弁しました。

「幼保再編とその民間移管に伴う土地の一体的な活用と、公民館の老朽化及び地域ふれあい会館設置の要望を総合的に検討された結果の予算要求であったと理解している。飛鳥幼稚園の再編を行ったことで、旧幼稚園敷地の借地料約2,200万円が不要になり、施設運営コストの削減効果も見込まれた。また、ふれあい会館建設にあたり公民館機能をもたせ集約化することで、今後の施設の維持・管理費用の削減も見込まれ用地の借地料を支払ったとしても、全体としてコスト減になる計画としての説明を受け、その内容は適切なものと考えた。」

確かに公民館を廃止し施設を集約すれば、コスト減になるかもしれませんが、幼稚園敷地に関しては返せばよいだけです。園舎の撤去費用が一時的にかかるにせよ、それで終わり、永年続くものではありません。そもそもなぜ飛鳥幼稚園の敷地を奈良市が一体的に活用しなければいけないのか私には理解できません。財政課はそのあたりの事は疑問に思わなかったのでしょうか。

最終的にこの計画は撤回されましたが、一方で**極楽坊あすかこども園を運営する宝山寺福祉事業団は、奈良市の計画に振り回され、跡地利用について梯子を外される格好**となりました。なお9月議会の答弁で、跡地をふれあい会館として使う借地料が年間1,200万円と見込まれていたとわかっています。行財政改革や幼保連携の名のもとに、議会や住民に詳しい説明もないまま、一部の関係者だけで判断し「素案」を進めた結果、行政が民間企業を巻き込み迷惑をかけてしまったことの責任は重いと言わざるをえません。

### 関連する12月定例会での質問

(佐野) 今議会において公民館の廃止、基幹6館を残し他の18館を廃止にする計画素案は撤回することの答弁を聞き、飛鳥公民館も残るということで安心しましたが、飛鳥地区住民へ廃止の中止について説明はされましたか?

(市長) 市民の代表である議員がお集まりいただいているこの場を借りて、あらためて**飛鳥公民館の廃止を撤回**することをお伝えする。

(佐野) 今回の件で地域は分断され今後の飛鳥地区の自治に大きな溝が出来てしまいました。地域の分断を招いた責任をどう考えますか?

(市長) **地域が混乱**されていることについて、遺憾に感じている。

(佐野) 公民館本館と分館、ふれあい会館を今後どのように運営していこうと考えているのかお答えください。

(市長) 公民館本館については生涯学習財団で、公民館分館と地域ふれあい会館は地域が主体となる団体による運営を継続していく。地域の状況に合わせて利用ニーズに沿った施設運営を進めていきたいと考えている。